

# 1 部

学習サポート

## 8 / 10～9 / 29の各種申込締切一覧

通信教育部では各自のペースで学習していただくことを基本としておりますが、各種の申込みは下記の日程必着でお願いいたします。

### ■全学生に関連するもの

	提出物	締切日
9月科目修了試験	レポート・ 申込みハガキ	8月23日(木)
秋期スクーリングⅠ (9/15～9/30)	申込みハガキ	8月23日(木)
秋期スクーリングⅡ (10/6～10/28)	申込みハガキ	9月13日(木)
オンデマンド・スクーリング	TFUオンデマンド 画面上申込み	8月22日(水)正午 ほか本冊子 p. 52 表参照
単位互換協定にもとづく スクーリング・資料請求申込締切	4部 p. 48～50 参照	8月16日(木)
単位互換協定にもとづく スクーリング・出願締切		8月24日(金)

	受付日
<p style="text-align: center;"><b>レポート</b></p> <p>(レポートはいつ提出してもよいものですが、受付日の午前中到着分までについて、まとめて教員に依頼します。ひとつの提出目標として目安にしてみてください。)</p>	8月23日(木) 8月31日(金) 9月11日(火) 9月20日(木) 9月27日(木)

※「スクーリング受講者専用別レポート」は、受講後1カ月以内必着です。

## ■社会福祉援助技術演習・実習関連

	締切日	備考
<b>★■社会福祉援助技術演習 A</b> 2・3単位めレポート <b>◆社会福祉援助技術演習 I</b> 2単位めレポート (スクーリング事後レポート)	7～8月受講者で 今秋 <b>★■演習 B</b> ・ <b>◆演習 II</b> 受講希望 者 →9月15日(土)	『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「 <b>★■演習 A</b> 」 p. 131～136 「 <b>◆演習 I</b> 」 p. 188～192 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2012』p. 30～31
<b>★■社会福祉援助技術演習 B</b> ・ <b>◆社会福祉援助技術演習 II</b> スクーリング受講申込み (本冊子巻末の申込ハガキ) + 1単位めレポート (スクーリング事前課題)	9～11月受講希望者 →9月15日(土)	『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 「 <b>★■演習 B</b> 」 p. 137～142 「 <b>◆演習 II</b> 」 p. 193～197 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2012』 p. 34
<b>★■社会福祉援助技術演習 C</b> 3単位めレポート	9 / 2 受講希望者 →8月17日(金)	『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 <b>★■指導 B</b> p. 153～156 <b>★■演習 C</b> p. 143～148 <b>◆指導</b> p. 198～200 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2012』 p. 35, 37～39
	7 / 28・29 (C - 1 + C - 2) 受講希望者 →8月31日(金)	
<b>★■社会福祉援助技術演習 C</b> (C - 1 + C - 2) スクーリング受講申込み (『With』82号巻末の申込用紙)	実習免除者・科目等 履修生での実習希望 者：3回目締切 →9月10日(月)	
<b>★■社会福祉援助技術実習指導 B - 3 +</b> <b>★■社会福祉援助技術演習 C - 2</b> ・ <b>◆社会福祉援助技術現場実習指導 (事後)</b> スクーリング受講申込み	11～2月受講希望者 →9月29日(土)	

	締 切 日	備 考
<b>★■社会福祉援助技術実習指導B</b> 課題3・4・5 <b>◆社会福祉援助技術現場実習指導(事後)</b> 課題3-① (実習事後課題)	9/1受講希望者 →8月10日(金) 10/13受講希望者 →9月21日(金) 10/20受講希望者 →9月28日(金)	『レポート課題集 2013(社会福祉編)』 <b>★■指導B</b> p. 153~156 <b>★■演習C</b> p. 143~148
<b>◆社会福祉援助技術現場実習指導(事前)</b> スクーリング受講申込み	8月末実習申込者 →申込不要	<b>◆指導</b> p. 198~200 + 『試験・スクー リング 情報ブッ ク2012』 p. 35, 37~39
<b>◆社会福祉援助技術現場実習</b> 受講申込み	H20年度以前入学 者対象 →8月31日(金)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 65~67

## ■精神保健福祉援助演習・実習関連

	締 切 日	備 考
<b>◆★精神保健福祉援助演習</b> スクーリング受講申込み + 1単位めレポート (スクーリング事前課題)	10~11月受講希望者 →9月15日(土)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 75~82 ※『With』82号 p. 69~70も参照
<b>◆★精神保健福祉援助実習</b> (事前指導) スクーリング受講申込み	11~12月受講希望者 →9月18日(火)	『レポート課題集 2011(3・4年次)』 p. 83~97
<b>◆★精神保健福祉援助実習</b> (事後指導) スクーリング受講申込み	12~2月受講希望者 →9月26日(水)	※『With』82号 p. 71・72も参照

◆★精神保健福祉援助実習課題3-② (実習事後レポート)	9/8・9受講希望者 →8月22日(水)	『レポート 課題集 2011(3・4年次)』 p. 83~97 ※『With』82号 p. 71・72も参照
◆★精神保健福祉援助実習 受講申込み	8月31日(金)	

※『レポート課題集2011(3・4年次)』p. 83~97精神保健福祉援助実習の変更点は、  
該当者に3月中旬に文書にて郵送案内済み。

## ■教育実習・障害者(児)教育実習・介護実習関連

	締切日	備考
教育実習・障害者(児)教育実習 誓約書・健康診断書(・個人調 査票のコピー)提出	10月実習開始者 →8月10日(金) 11月実習開始者 →9月15日(土)	※事前指導受講済 者のみ対象
障害者(児)教育実習の事前・事後指導 1単位めレポート (スクーリング事後課題)	7/28・29受講済み で10月実習開始者 →8月6日(月) その他の方 →8月9日(木)午前中	『レポート 課題集 2013(心理・教職 編)』p. 245~246

## ■その他

### ●心理学実験

- ・心理学研究法Ⅱ(8月受講済者)1単位めレポート 8月17日(金)
- ・心理学実験Ⅱ(8月受講済者)実験レポート 8月20日(月)
- ・心理学実験Ⅰ(8月受講済者)実験レポート 8月28日(火)
- ・心理学実験Ⅰ(札幌受講済者)実験レポート 9月11日(火)

### ●10月生

- ・年度内評価レポート提出期限 8月31日(金)

### ●9月卒業希望者

- ・再提出レポート提出期限 8月20日(月)
- ・心理学実験Ⅰ・Ⅱ単位認定レポート提出期限 8月31日(金)

---

# 心理学を学ぶ姿勢

---

教員 MESSAGE

准教授 吉田 綾乃

社会心理学は「人間の社会的行動の法則性を明らかにする学問」です。また本科目は、スクーリングやレポート作成を通して、「人間の社会的行動について客観的に考察する態度を養うこと」を目的としています。そのため、スクーリングでは実験や調査によって得られたデータに基づく研究知見や理論を理解すること、レポート課題では対人認知や態度変容が「なぜ」生じるのかについて、「理論に基づいた客観的な考察を行うこと」を求めています。

では「理論に基づいた客観的な考察」とは何でしょうか。実はこれは非常に難しい問題を内包しています。例えば、心理学を学び始めると「この研究結果は、以前学んだ理論と矛盾している」と感じることもあると思います。心理学では、現実の世界で生じている事柄をデータ化し、モデルを立て検証します。どのようなモデルを構築するかは、研究者の価値観や研究方法に大きく左右されます（村上，2009）。心理学において「理論に基づいた客観的な考察」が困難であるひとつの理由は、どのような理論（モデル）に基づいた考察を行うかによって、主張内容が大きく変わってしまうことです。

例えば、今日、世界最大の心理学組織はAmerican Psychological Association（APA）です。APAの最初のミーティングは1892年に行われ、当時の構成メンバーは31名でした。しかしながらAPAの現在の会員数は150,000人を超え、54分野から構成されています（ちなみに、日本心理学会は1927年に創立し、2010年3月の会員数は7,341名です）。これらの数値から、心理学には様々な分野があり、異なる研究アプローチが存在することがお分かりいただけると思います。

また、『ヒルガードの心理学』という著名なテキストがあります。このテキストには、「両面を見る」という特集ページがあり、「恐怖症は条件づけ、それとも生まれつき」「言語が思考を規定するのか、それとも思考が言語を規定するのか」「心理学におけるフロイトの影響はまだ生き続けているのか」など18テーマに関して、対立する研究者の主張を紹介しています。例えば、「親は子供の発達にどれほどの影響があるのか」については、「親は子供の人格や知能にほとんど影響を及ぼさない」というハリスの見解と「間違いなく親の影響は大きい」というケーガンの見解を記載しています。このように、心理学では著名な研究者の間においても、見解が対立することが少なくありません。

私たちは研究者が提唱した理論を学び、「なるほど」と納得すると、その理論を「信じる」ようになることがあると思います。しかしながら、私は学びにおいて最も重要な点は、“データからそのような主張が導き出せるのか否か”を自ら判断できるようになること、すなわち、理論を裏付けるエビデンス（証拠）の妥当性を判断できることではないかと思っています。よって、レポート課題において“理論に基づいた客観的な考察”を行う場合には、現時点で自分自身が最も妥当であるとする理論に基づいて考察を行っていただきたいと思います。また、同時に「この考察は新たな理論が提唱された場合、変わることもあり得る」という見方も持ち続けていただきたいと思います。

東日本大震災以降、「専門家の意見＝正しい」という考え方が崩れたと言われています。専門家といえども、その主張を盲目に信じることは危険であると気が付いた次のステップは、「Aの意見よりもBの意見の信憑性が高い（エビデンスがしっかりしている）」という判断が出来るようになることではないでしょうか。心理学、とりわけ研究法や心理統計学を学ぶことを通じて、「科学的な見方・考え方」をひとりひとりが身に着けることは、現代を生きる私たちにとって汎用性の高いスキルを獲得することに

つながるのかもしれませんが。私自身もスクーリングやレポートを通して、皆さんとともに心理学の学びを深めていきたいと思っています。

〈興味のある方はご参照ください。〉

American Psychological AssociationのHP：<http://www.apa.org/>

ロジャー・R・ホック編（2007）『心理学を変えた40の研究』ピアソン・エデュケーション

⇒ 有名な研究の内容が詳しく紹介されているだけでなく、「研究の意義、批判とその後の研究や最近の展開」が掲載されています。

スーザン・N・ホークセマら著（2012）『ヒルガードの心理学 15版』金剛出版

⇒ 2009年にアメリカで出版されたテキストの日本語訳が出版されました。

村上宣寛（2009）『心理学で何がわかるか』ちくま新書

⇒ 心理学における科学的アプローチの重要性を主張し、現在の心理学の到達点をわかりやすく紹介しています。